

「調査員実態調査」報告書

一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会

公的統計基盤整備委員会

市場動向分析小委員会

2011年10月

目次

. 調査設計	1
. 調査結果のまとめ	2
. 調査結果の詳細	3
1. 性・年齢	3
2. 調査員の調査経験期間	4
3. 登録している調査機関数	5
4. 国や地方自治体の統計調査員登録状況	6
5. 過去1年間の調査手法別受託状況	7
6. 調査員資格認定制度についての必要性	8
7. 調査員を続けている理由	9
. 調査票	14
1. 事前調査 調査票	14
2. 本調査 調査票	15
3. 本調査 回答はがき	16

．調査設計

(1) 調査概要

- ・ 調査対象：会員社と関わりがある調査員
(直接保有、登録、委託先など、法人・個人の形態は不問)
- ・ 調査地域：全国
- ・ 調査手法：会員社からの手渡し等による配布、調査員からは郵送での回収
(JMRA 宛はがき)
- ・ 実施手順：
事前調査 会員社の協力意向、配布可能な期間と調査員人数を把握
(窓口へメール送信)
本調査 事前調査に基づき、JMRA 会員社 調査員の順で調査票を配布

(2) 事前調査

- ・ 対象会員社：150 社
(150 社中、48 社回収、内 32 社が調査員保有、内 22 社が協力可)
- ・ 調査員総数：13,616 名

(3) 本調査

- ・ 質問内容
調査員キャリア、登録社数、統計調査員登録の有無、調査手法別受託本数、
資格認定制度への賛否、調査員を続ける理由、性年齢、居住都道府県
- ・ 対象会員社：22 社
(事前調査で調査員と関わりがあり調査に協力できると回答した会社数)
- ・ 調査員総数：8,833 名
(上記の対象となった会社が回答した調査員数)
- ・ スケジュール
2010 年 12 月 9 日 会員社への発送 配布開始アンケート配布
(インストラクション時等)
2011 年 6 月 10 日 回収締め切り

(4) 回収状況

- ・ 1125 人 (実配付数 4,778 人回収率 23.5%) 6 月 30 日現在
(注) 実配付数は 3 月 31 日までに実際に配付された調査票数：
調査員への調査票配付を調査のインストラクション時に行う会社もあるため、3
月 31 日時点で、調査対象者数 8,833 人に対し、4,778 人分配付した。

・ 調査結果のまとめ

性別および年齢

- ・ 女性、50 歳代以上の調査員が大半を占める。

調査経験期間

- ・ 経験期間が 10 年を超える調査員が全体の 2/3 を占める。

登録している調査機関数

- ・ 2 社以上の調査機関に登録をしている調査員が 6 割を占める。

国や地方自治体の統計調査員登録状況

- ・ 統計調査員に登録している調査員の割合は 47.4% である。

過去 1 年間の調査手法別受託状況

- ・ 訪問面接と留置がいずれも約 8 割である。

調査員資格認定制度についての必要性

- ・ 資格認定制度が必要と回答した調査員が約半数を占める。

調査員を続けている理由

- ・ 第一に“勤務時間の自由さ”を挙げる人が最も多い。また、調査後の達成感やいろいろな出会い、知識の取得、社会貢献等、調査自体が持つ魅力も大きな継続理由となっている。

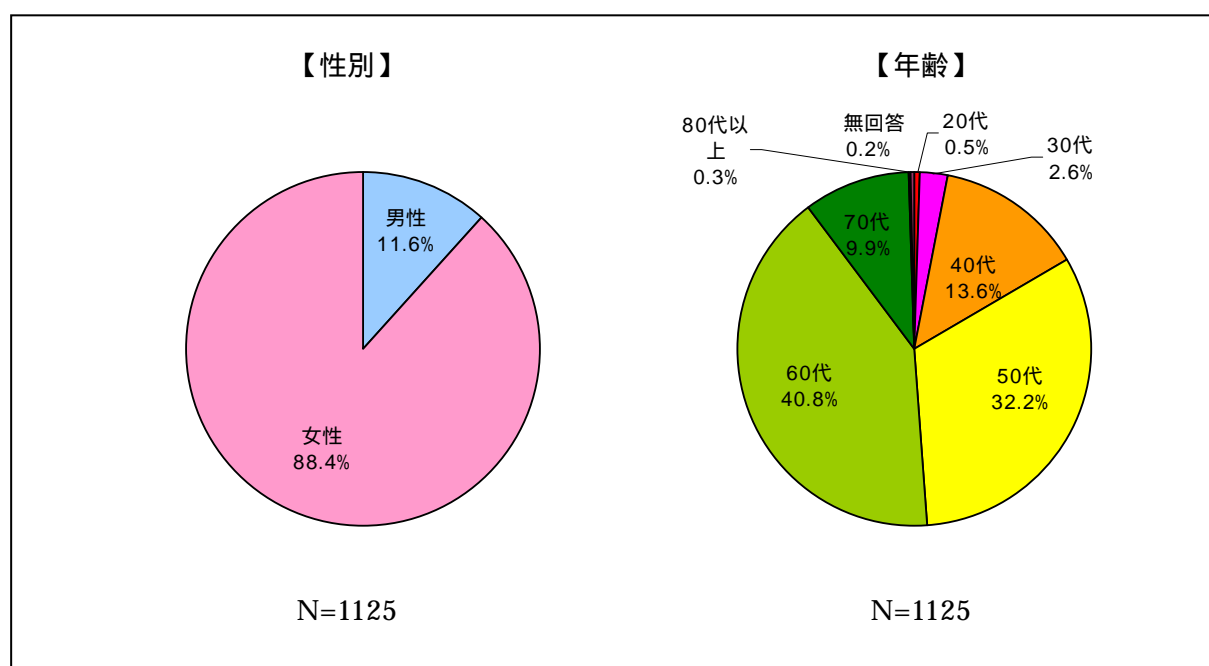
・ 調査結果の詳細

1. 性別、年齢

女性、50歳以上の調査員が大半を占める

属性 1. あなたの性別をお知らせ下さい。(SA)

属性 2. あなたの現在の年齢をお知らせ下さい。(SA)



- 8割超を女性が占める（88.4%）。また、50歳以上の調査員が全体の4/5以上を占め、調査員の高齢化が伺える。

参考：居住都道府県別回答者割合（N=1125）。

都道府県名	%
北海道	5.1
青森県	1.4
岩手県	0.7
宮城県	1.3
秋田県	1.8
山形県	1.6
福島県	1.4
茨城県	1.2
栃木県	1.4
群馬県	1.2
埼玉県	5.0
千葉県	4.6
東京都	14.4
神奈川県	6.2

都道府県名	%
新潟県	2.3
富山県	0.3
石川県	0.6
福井県	0.4
山梨県	1.3
長野県	2.0
岐阜県	0.9
静岡県	4.0
愛知県	4.2
三重県	1.2
滋賀県	0.9
京都府	1.3
大阪府	6.8
兵庫県	3.5
奈良県	0.7
和歌山県	0.7

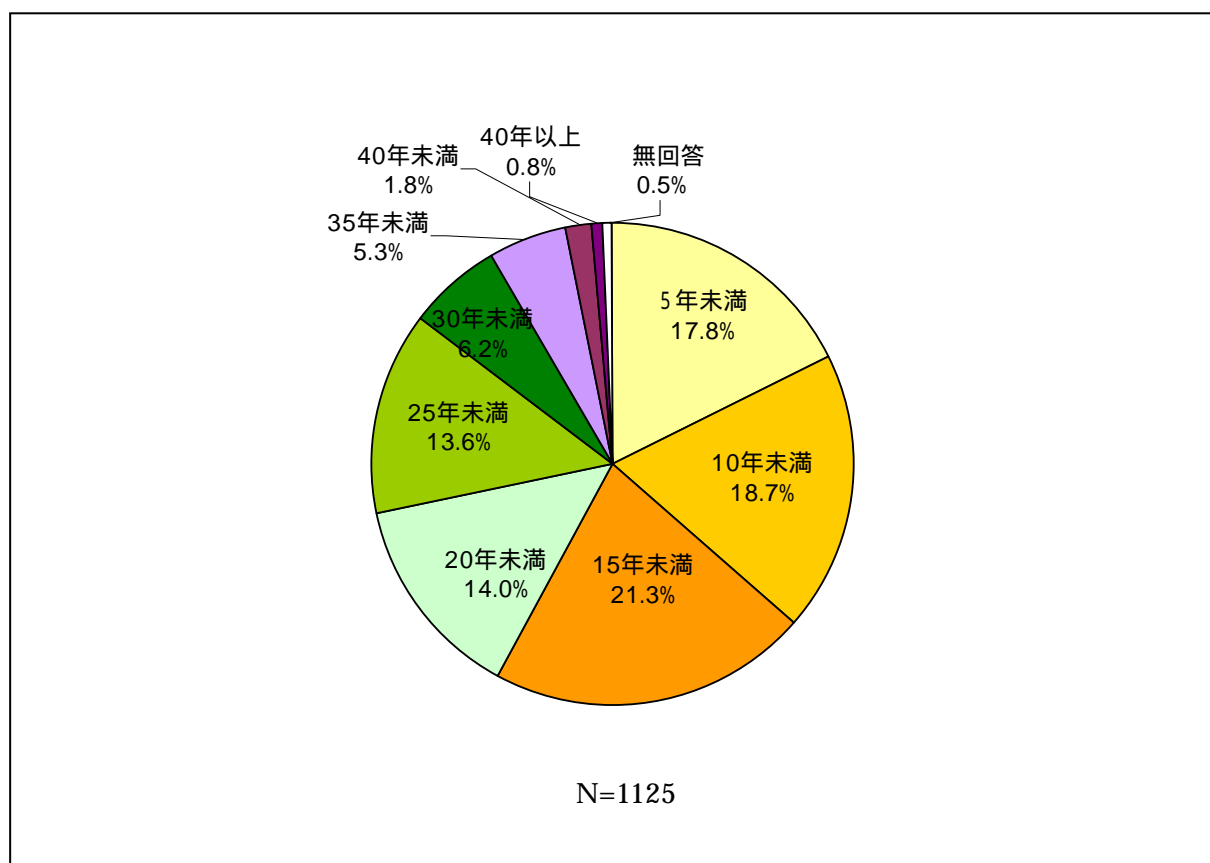
都道府県名	%
鳥取県	0.7
島根県	0.9
岡山県	1.1
広島県	3.0
山口県	1.3
徳島県	0.6
香川県	1.0
愛媛県	1.6
高知県	1.1

都道府県名	%
福岡県	2.6
佐賀県	0.7
長崎県	1.2
熊本県	1.1
大分県	0.9
宮崎県	1.1
鹿児島県	1.2
沖縄県	0.5
無回答	1.0

2. 調査員の調査経験期間

経験期間が10年を超える調査員が全体の2/3を占める

問 1.あなたが調査員として初めて調査の仕事をしてから、現在までどのくらいの期間が経ちましたか。(OA)

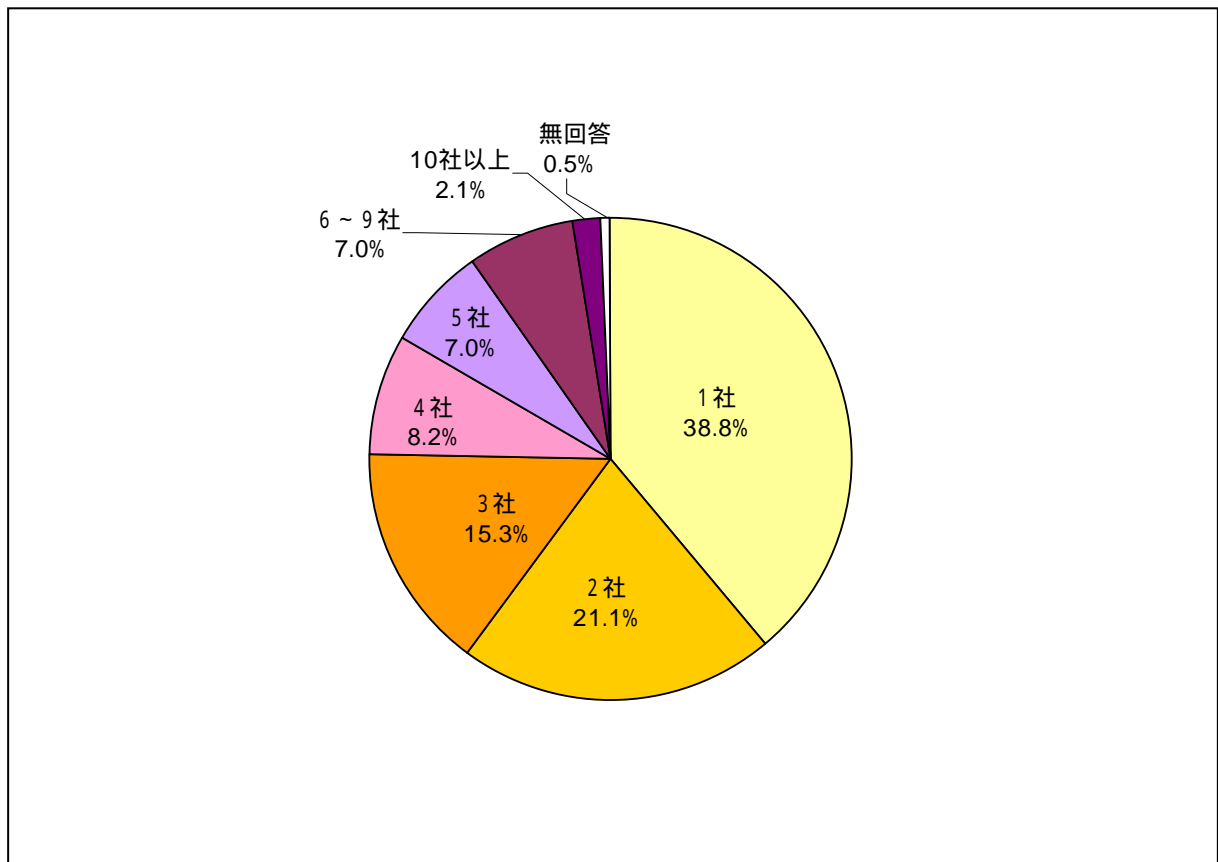


- 10年未満の調査員(= 5年未満 + 5年以上10年未満)で全体の1/3を占める(36.5%)。
- 10年以上15年未満(21.3%)、15年以上20年未満(14.0%)、20年以上25年未満(13.6%)だけで約半数に達し、それ以上も含めると、経験期間が10年を超える調査員が全体の約2/3を占める。

3. 登録している調査機関数

2社以上の調査機関に登録をしている調査員が6割を占める

問 2.あなたは現在、何社の調査機関に調査員として登録していますか。(OA)

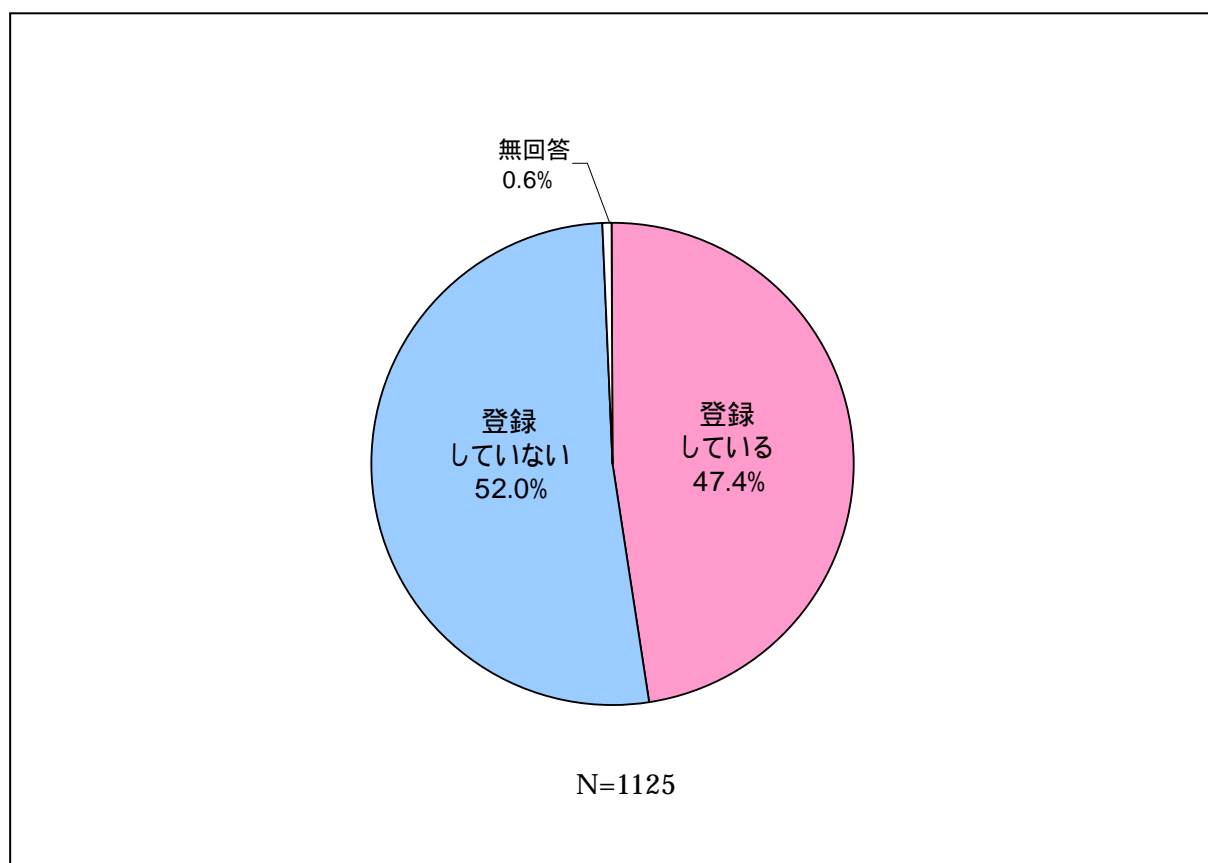


- 1社のみ登録の調査員は4割弱(38.8%)。以降、2社21.1%、3社15.3%と続いており、2社以上に登録している調査員が、6割を占める。

4. 国や地方自治体の統計調査員登録状況

統計調査員に登録している調査員は 47.4%

問 3.あなたは国や地方自治体が直接雇用する統計調査の調査員として登録していますか。(SA)

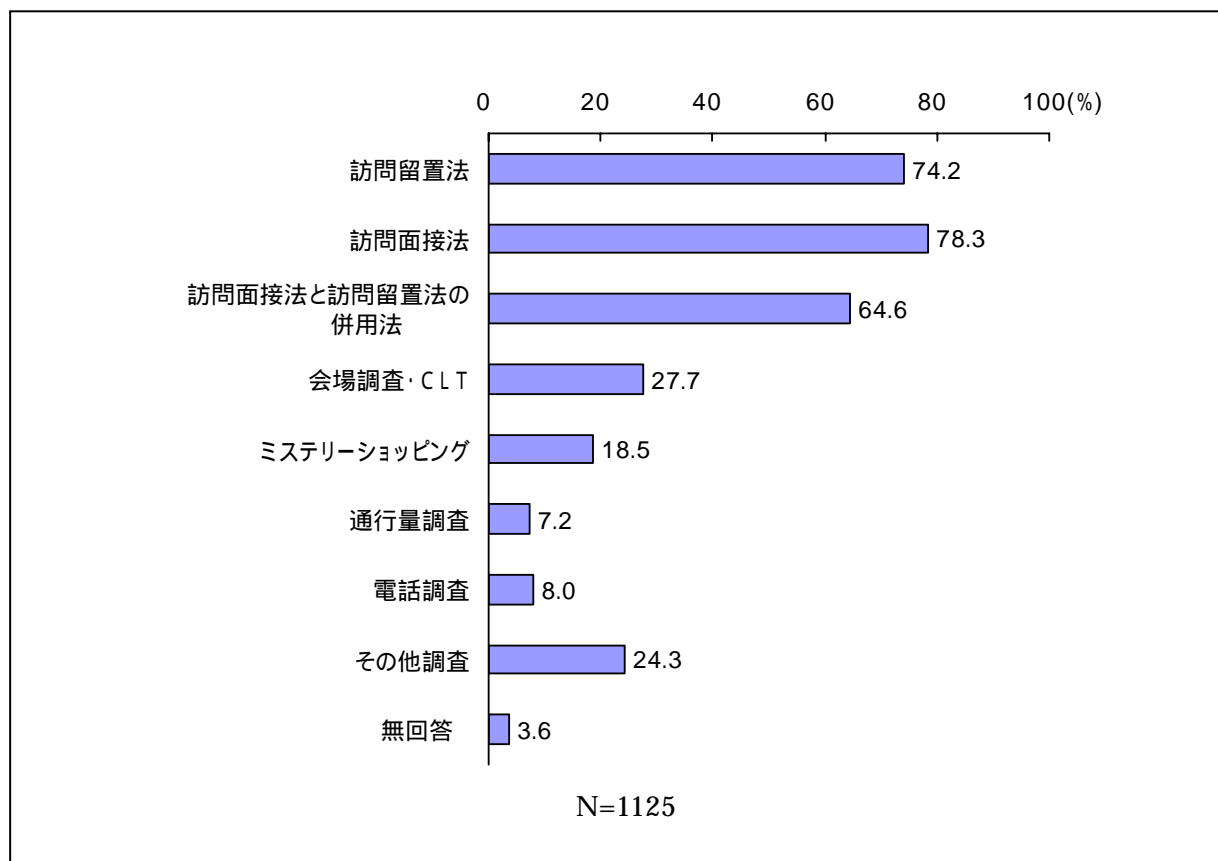


- 統計調査員に「登録している」が 47.4%に対して、「登録していない」は 52.0%であった。登録していない調査員の方が若干多い。

5. 過去1年間の調査手法別受託状況

訪問面接と留置がいずれも約8割

問 4.あなたが過去1年以内に受託した調査の件数を以下の手法別に分類して、その件数をお知らせください。(MA) グラフは1件以上受託した人数で作成

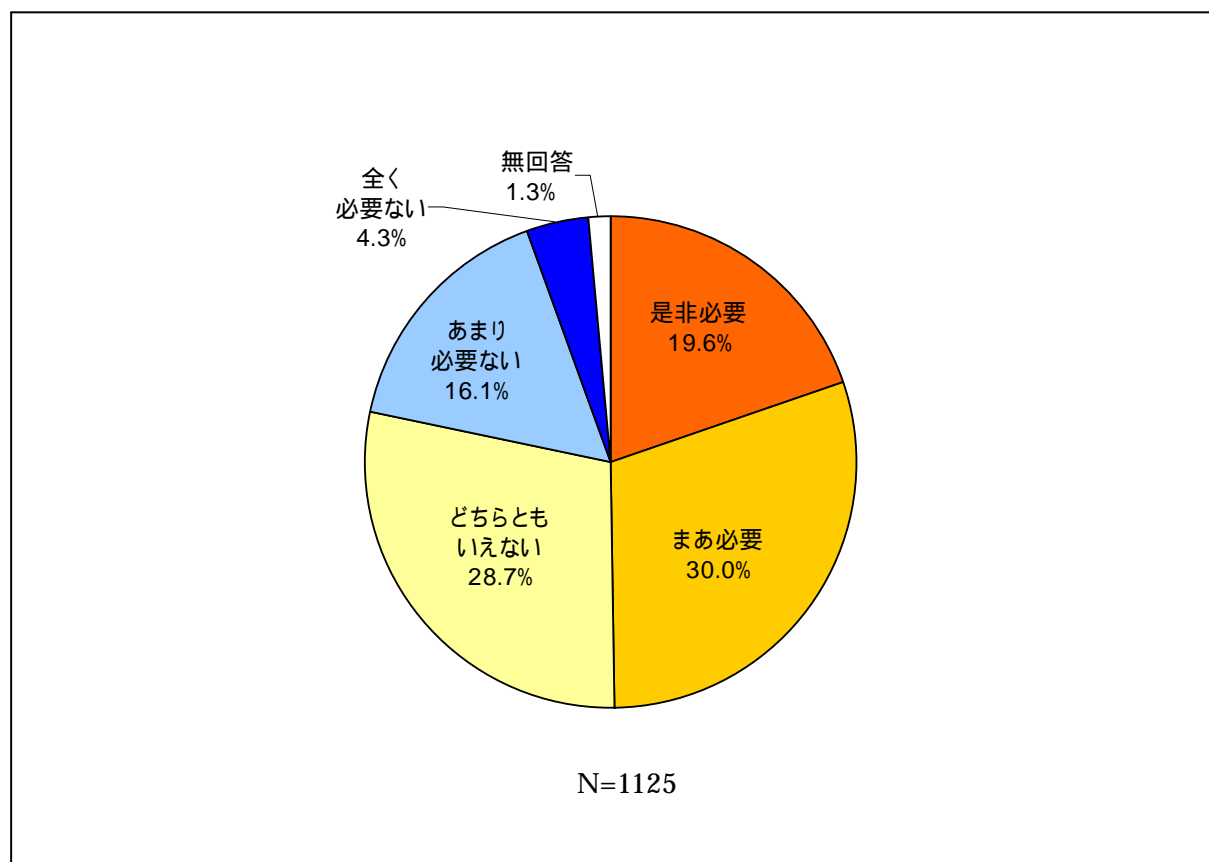


- 最も多いのは「訪問面接法」で78.3%である。次いで「訪問留置法」が74.2%、「面接・留置併用法」も7割弱(64.6%)と、相対的に高い。

6. 調査員資格認定制度についての必要性

資格認定制度が必要と回答した調査員が約半数を占める

問 5.調査員の社会的地位及び待遇の向上の為に、第三者機関による調査員を対象とした資格認定制度を作るべきだとする意見があります。あなたはこのような資格認定制度がどの程度必要だと思いますか。(SA)



- 是非必要（19.6％）とまあ必要（30.0％）を合わせると、約半数（49.6％）が「必要」としている。
- 一方、「必要ない」（＝あまり必要ない＋全く必要ない）は2割（20.4％）である。

7. 調査員を続けている理由

第一に“勤務時間の自由さ”だが、調査後の達成感やいろいろな出会い、知識の取得、社会貢献等、調査自体が持つ魅力も大きな継続理由

問 5. あなたの「調査員」という職業への気持ちを聞かせてください。ズバリ、あなたはなぜ調査員を続けているのでしょうか。回答欄に自由にご記入ください。(OA)

回答の中で使用されている単語の出現頻度上位 50 語

N = 1019

順位	単語	出現頻度	順位	単語	出現頻度
1	仕事	504	25	貢献	88
2	できる	483	27	わかる	84
3	人	450	28	つながり	79
4	調査	316	29	会う	72
5	自分	303	30	多い	67
6	時間	293	31	している	65
7	ある	285	32	達成	64
8	いろいろな	273	33	都合	62
9	なる	256	34	知る	61
10	社会	192	35	嬉しい	57
11	楽しい	158	35	手当・報酬	57
12	好き	136	35	対象者	57
13	出会い	134	38	働ける	53
14	する	133	39	長年	51
15	自由	126	40	私自身	50
16	勉強	118	40	地域	50
17	収入	107	42	達成感	49
17	世の中	107	43	年齢	47
19	ない	104	44	合っている	46
20	良い	98	45	知らない	44
21	時	97	46	やりがい	43
21	生活	97	46	得られる	43
23	会話・対話	94	46	面白い	43
24	接する	89	49	少しでも	41
25	健康	88	50	歩く	40

- 自由回答の内容をテキスト型データ解析ソフト WordMiner を利用して分析した。今回は使用されている単語別の出現頻度と各サンプル、及び各属性との間に対応分析を行い、回答内容のクラスター化や各属性別の有意性テストを試みた。上記の表は解析の出発点となる各単語の出現頻度を多い順に並べて、上位 50 位までを表記したものである。
- 上位 10 位以内の単語を見ると“できる”の言葉が表すように、“調査”という“仕事”を通じて、何かを実現できると考えて仕事を続けている人が多そうだ。実現の対象としては“人” “自分” “時間” “いろいろなもの” “社会”に関する内容が多いことが予想される。

調査員継続理由クラスターの内訳

閾値:3 使用成分:15 クラスタ数:30 使用成分の累積寄与率:10.6%

クラスター1～15

N = 1019

No	変動	n	%	クラスター解釈	クラスター内で有意に使用されている単語、上位10									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.106	158	15.5%	いろいろな人や地域との出会いが楽しい	人	いろいろな	楽しい	会話・対話	勉強	地域	好き	出会い	会う	わかる
2	0.085	76	7.5%	世の中の動きがわかって面白い	わかる	世の中	面白い	動き	興味	商品	知る	テレビ	状況	早く
3	0.118	114	11.2%	苦勞して終えた時の達成感、やりがいがある	達成感	達成	通して	終わる	時	なる	大変	生きがい	苦勞	ある
4	0.082	19	1.9%	国民の意見を把握して行政や政治に反映させることに意義を感じる	国	反映	国民	把握	政治	クライアント	行政	直接	自治体	判断
5	0.017	2	0.2%	民間の調査は大変	民間	たまたま	県	足らない	回収率	同じ	信用	大好き	程度	なら
6	0.010	5	0.5%	調査員の依頼を受けるので続けている	バイザー	安い	価格	制度	される	民間	依頼	調査	よって	私達
7	0.067	24	2.4%	手当て・報酬が欲しい	高い	手当報酬	欲しい	割に合わない	価格	得る	収入	多くなる	努力	老後
8	0.108	62	6.1%	拒否されることもあるが、協力してもらった時の喜びがある	個人	協力	くれる	調査	時	対象者	情報	言葉	拒否	理解
9	0.000	1	0.1%	報道機関への就職を希望している	希望	機関	している							
10	0.020	9	0.9%	商品開発に貢献できる	開発	商品	喜ばれる	担う	消費者	一端	製品	つながり	貢献	働きやすい
11	0.097	53	5.2%	社会貢献ができる	社会	貢献	参加	持てる	実感	している	自己	したい	つながり	広がる
12	0.086	47	4.6%	・ちょっとしたお小遣い、収入が得られる ・健康の維持やボケ防止 ・体力の続く限り続けたい	お小遣い	維持	健康	いつまでも	防止	ボケ	続く限り	体力	知りた	認知症
13	0.000	3	0.3%	経済的理由	経済的									
14	0.059	22	2.2%	・経済的理由 ・時間に余裕がある ・社会に貢献したい	経済的	余裕	政策	社会	嬉しい	健康	面白い	スタイル	感じ方	適性
15	0.002	2	0.2%	生活資金を確保するため	資金	手当報酬	老後	生活						

- 探索的に解析を行ない、最もクラスターの解釈がしやすいパラメーターを検討した結果、閾値を3（解析に使用する単語の最低出現頻度）、クラスター分析で使用する成分を15、クラスターの分割数を30と設定した。
- クラスタ1の「いろいろな人や地域との出会いが楽しい」、クラスタ23の「自分の都合の良い時間に自由に働ける」の比率が共に15.5%で、大きなクラスタとなっている。

No	変動	n	%	クラスター解釈	クラスター内で有意に使用されている単語、上位10												
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
16	0.004	6	0.6%	家計の足しにするため	家計	生活	足し										
17	0.024	21	2.1%	生活費の足しにするため	生活	高める	続いて	得る	喜ばれる	もっと	少しでも	程度	モニター	関心			
18	0.003	2	0.2%	副業として良い(時間が自由なので)	副業	アルバイト	ならない	本業									
19	0.030	5	0.5%	元気の源	源	元気	気	使い方	時期	多少	収入	融通	生きがい				
20	0.000	1	0.1%	スーパーバイザー制は良くない	バイザー	制度	なら	性格	会社								
21	0.011	2	0.2%	国民の意見を行政や政治に反映させる	行政	伝える	判断	把握	政治	反映	国民	できない	関係なく	意見			
22	0.025	7	0.7%	副業として良い	副業	本業	アルバイト	なる	収入	経験	きく	とる	なかなか	持っている			
23	0.140	158	15.5%	自分の都合の良い時間に自由に働ける	時間	都合	自分	仕事	自由	働ける	できる	融通	調整	決められる			
24	0.049	46	4.5%	自分に合っている(自分の都合でできる)	合わせて	合っている	自分	スケジュール	立てる	仕事	できる	ベース	やすい	稼働			
25	0.129	66	6.5%	・年齢に関係なく続けられる ・長年やって慣れている	年齢	慣れ	ない	関係なく	長年	雇用されない	定年後	経験	制限	形			
26	0.024	20	2.0%	自由な時間を有効に使える	使える	有効	空き	時間	今回	まだ	子ども	働ける	しながら	使う			
27	0.076	73	7.2%	時間が自由で束縛されない	時間	自由	子ども	制約・束縛	利く	されない	ある程度	子育て	給	決められる			
28	0.011	10	1.0%	自由な時間を有効に使える	有効	時間	自由	無理	余暇	使う	変化						
29	0.021	4	0.4%	家族が病気で働けない・お金がかかる	病気	病院	家族	主人	昼間	年金	雇用されない	提出	までに	期間			
30	0.000	1	0.1%	たまたま続けている	たまたま												

- クラスター-23 と同様に “ 時間の自由さ ” をキーワードとしたクラスターとしては、クラスター-24 「自分に合っている(自分の都合でできる)」4.5%、クラスター-26 と 28 「自由な時間を有効に使える」各 2.0%と 1.0%、クラスター-27 「時間が自由で束縛されない」7.2%が挙げられる。

調査員継続理由のまとめ（クラスター分析より）

N = 1019

仕事をする時間が自由にできる	30.1%
苦勞して仕事を終えた時の達成感がある	17.3%
いろいろな人や地域との出会いが楽しい	15.5%
報酬の為・家計の足しにする	8.9%
国の政策決定や企業の商品開発に貢献できる	8.1%
世の中の動きがわかって面白い	7.5%
年齢に関係なく続けられる	6.5%
健康の維持やボケ防止に良い	5.1%
その他	1.0%

- 30 クラスターの内容を吟味して、内容の近いクラスターの比率をまとめたものが上記の表である。
- 調査員を続けている理由として最も多く見られた回答が勤務時間の“自由さ”であった。多くの調査員は勤務時間が会社に拘束されない点を評価して、調査の仕事を継続している。
- 調査の内容自体に魅力を感じて調査を続けている人も多い。具体的には“苦勞して仕事を終えた後の達成感”“いろいろな人や地域との出会い”“世の中の動きがわかる”“国の政策決定や企業の商品開発に貢献できる”等が挙げられる。
- 近年、調査員の高齢化が進んでいる点を反映してか“年齢に関係なく続けられる”“健康の維持やボケ防止に良い”等の回答も多く見られた。
- 調査の報酬自体を期待して調査を続けている人は全体の1割弱程度であった。

属性別特徴のまとめ

		各属性内で有意に使用されている単語、上位10										
	n	属性別の特徴	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
調査員経験年数別	1_5年未満	174 ・空き時間を有効に使える	時間	空き	退職	比較的	知り合い	多い	統計	家	一般	使える
	2_5年～10年未満	187 ・収入の足しになる	収入	昼間	足し	時々	刺激	経済的	バイザー	調査	他	ある
	3_10年～15年未満	220 ・生活のため ・苦労した時の達成感や人の優しさ ・世の中の動きを知ることができる	優しさ	情報	動き	もらえる	傾向	後	くれる	日本	個人	世論
	4_15年～20年未満	149 ・自分のペースで仕事ができる ・性格的に苦にならない	現場	訪門	評価	商品	開発	自分	世の中	苦にならない	つながり	制度
	5_20年～25年未満	138 ・人との会話が好き ・出勤しなくて良いので自由にできる	好き	税金	有意義	会話・対話	もって	出勤	長年	いつも	までに	性格
	6_25年以上	146 ・健康維持のため ・報酬が安い	健康	長年	受けて	価格	安い	子ども	成長	大切	地点	歩く
重複登録状況別	1_1社のみ登録	395 ・退職後に始めた調査が面白い	退職	電話	面白い	統計	意義	定年後	できない	対応	少しでも	お手伝い
	2_2社以上登録	620 ・年齢に関係なく働ける調査が楽しい	年齢	楽しい	自分	持って	行く	アンケート	雇用されない	ある	言葉	働ける
国や地方自治体の統計調査員登録状況別	1_登録している	488 ・世の中のことがよくわかる ・民間の調査は大変	民間	よく	最近	国	私自身	世の中	公的	長年	拒否	もっと
	2_登録していない	526 ・商品開発に興味があり面白い ・手当や報酬のため	商品	興味	電話	初めて	製品	面白い	手当・報酬	活用	経済的	豊富

- 調査員の経験年数別に見ると、調査経験年数が浅いほど“空き時間を有効に使える” “収入の足しになる” “生活のため”等、業務の実益に即した回答が多い。一方、調査員経験を重ねるほど、“自分の性格やライフスタイルに合っている”等、業務と自分との相性に関連した回答が多くなる。
- 調査機関の重複登録の有無別に見ると、1社のみに登録している人には“退職後に始めた”といった回答が多く見られた。また、調査という業務の受け止め方について、1社のみに登録している人は“面白い”、2社以上に登録している人は“楽しい”といった回答傾向の違いも見られた。
- 国や地方自治体の統計調査員登録の有無別に見ると、登録している人は“世の中の動向”、登録していない人は“商品開発の動向”に興味がある等の違いが見られた。

．調査票

1 ．事前調査 調査票

会員社様 以下の事前アンケートにご回答の上、速やかにご返信下さい。

----- < 調査員実態調査 事前調査 > -----

Q1. 上記趣旨の調査対象となりうる貴社と関わりのある調査員の人数は？

- (1) 訪問調査 ・ 約 人
(2) その他の調査 ・ 約 人

調査にご協力いただける場合、実際に配布した数についても後日、お伺いする予定です。

調査員とのかかわりが全くない場合は0人として返信をお願いします。 事前調査終了

Q2. 貴社では上記趣旨の調査（本調査）にご協力いただけますか？（あてはまるものを残してそれ以外は削除）

1. 調査員とのかかわりがあり、調査にも協力できる Q3 へ
2. 調査員とのかかわりはあるが、調査への協力はできない 事前調査終了

Q3. 1年のうち、調査対象となりうる調査員が多く集まる時期など、調査員へのアンケートの配布が円滑に行えると思われる時期やタイミングがありましたらお知らせ下さい。
（例：毎年12月ごろ 等）

Q4. その他、本調査の実施に際して、ご不明点、ご意見等がありましたらお知らせ下さい。

FS 会員社名： 会員 NO (2 0)

連絡先・ご担当者：

TEL：

e-mail：

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-9-9

社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会

公的統計基盤整備委員会 事務局 担当 阿部

電話 03(3256)3101 FAX 03(3256)3105

e-mail:abe@jmra-net.or.jp

2. 本調査 調査票

2010年度 調査員実態調査設問文

回答は同封の回答用ハガキへご記入ください

- 問1. あなたが調査員として初めて調査の仕事をしてから、現在までどのくらいの期間が経ちましたか。(年 ヶ月という形で数字をご記入ください。)
- 問2. あなたは現在、何社の調査機関に調査員として登録していますか。登録社数をご記入ください。(1社に専属契約の場合は1とご記入下さい。調査機関には社団法人や財団法人も含まれます。)
- 問3. あなたは国や地方自治体が直接雇用する統計調査の調査員として登録していますか。
- 問4. あなたが過去1年以内に受託した調査の件数を以下の手法別に分類して、その件数をお知らせください。正確に思い出せない場合は、概数を記入してください。
- 1) 訪問面接法
 - 2) 訪問留置法
 - 3) 訪問面接法と訪問留置法の併用法
 - 4) 会場調査・CLT (事前リクルート、路上でのスクリーニング共含む)
 - 5) ミステリーショッピング
 - 6) 通行量調査
 - 7) 電話調査
 - 8) その他調査
- 問5. 調査員の社会的地位及び待遇の向上の為に、第三者機関による調査員を対象とした資格認定制度を作るべきだとする意見があります。あなたはこのような資格認定制度がどの程度必要だと思えますか。
- 問6. あなたの「調査員」という職業への気持ちを聞かせてください。ズバリ、あなたはなぜ調査員を続けているのでしょうか。回答欄に自由にご記入ください。

属性情報1. あなたの性別をお知らせ下さい。

属性情報2. あなたの現在の年齢をお知らせ下さい。

属性情報3. 現在あなたがお住まいの都道府県をお知らせください。都道府県番号は下記の各都道府県の番号をご記入ください。

- | | | | | |
|---------|----------|----------|---------|----------|
| 1. 北海道 | 11. 埼玉県 | 21. 岐阜県 | 31. 鳥取県 | 41. 佐賀県 |
| 2. 青森県 | 12. 千葉県 | 22. 静岡県 | 32. 島根県 | 42. 長崎県 |
| 3. 岩手県 | 13. 東京都 | 23. 愛知県 | 33. 岡山県 | 43. 熊本県 |
| 4. 宮城県 | 14. 神奈川県 | 24. 三重県 | 34. 広島県 | 44. 大分県 |
| 5. 秋田県 | 15. 新潟県 | 25. 滋賀県 | 35. 山口県 | 45. 宮崎県 |
| 6. 山形県 | 16. 富山県 | 26. 京都府 | 36. 徳島県 | 46. 鹿児島県 |
| 7. 福島県 | 17. 石川県 | 27. 大阪府 | 37. 香川県 | 47. 沖縄県 |
| 8. 茨城県 | 18. 福井県 | 28. 兵庫県 | 38. 愛媛県 | |
| 9. 栃木県 | 19. 山梨県 | 29. 奈良県 | 39. 高知県 | |
| 10. 群馬県 | 20. 長野県 | 30. 和歌山県 | 40. 福岡県 | |

3. 本調査 回答はがき

「2010年度調査員実態調査」回答欄		<p>1 0 1 0 0 4 4</p> <p>東京都千代田区鍛冶町1丁目9番9号 石川LKビル 2F</p> <p>社団法人日本マーケティング・リサーチ協会 「2010年度調査員実態調査」 事務局 行</p>
問1.	調査経験期間 ()年 ()ヶ月	
問2.	登録している調査機関数 ()社	
問3.	国や地方自治体の統計調査員登録状況 1. 登録している 2. 登録していない	
問4.	過去1年間の調査手法別受託件数	
	1. 訪問面接法 ()件	
	2. 訪問留置法 ()件	
	3. 訪問面接法と訪問留置法の併用法 ()件	
	4. 会場調査・CLT ()件	
	5. ミステリーショッピング ()件	
	6. 通行量調査 ()件	
	7. 電話調査 ()件	
	8. その他調査 ()件	
問5.	調査員資格認定制度についての必要度	
	1. 是非必要 4. あまり必要ない	
	2. まあ必要 5. 全く必要ない	
	3. どちらともいえない	
属性1.	性別	
	1. 男性 2. 女性	
属性2.	年齢	
	満()歳	
属性3.	居住都道府県 別紙設問文の番号をご参照ください。	
	都道府県名() 都道府県番号()	
		問6. 調査員を続けている理由

禁 無 断 転 載

「調査員実態調査」報告書

2011年10月31日発行

発行所：一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会
公的統計基盤整備委員会
市場動向分析小委員会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-9-9 石川ビル2F

電話(03)3256-3101

FAX(03)3256-3105

<http://www.jmra-net.or.jp>

©Copyright, 2011; JMRA, ALL Rights Reserved